様式 10（A4 判縦、3,000 字以内）

博士論文審査要旨

論文審査担当者

主査　明星大学教授　　板野　和彦
副査　明星大学教授　　樋口　修資
副査　明星大学教授　　廣嶋龍太郎
副査　福島大学教授　　杉田　政夫

申請者氏名　入江　眞理
論文題目　J=ダルクローズが体操教育から受けた影響とその後の体操教育の発展に及ぼした影響についての研究

（論文審査の結果の内容）
作曲家・音楽教育家であるエミール・ジャック=ダルクローズ（Jaques-Dalcroze, Emile 1865-1950）が、身体運動を活用した音楽教育であるリトミックを創案する中で 20 世紀前後の体操教育から受けた影響と、リズムを取り入れた体操の創案者としてドイツの体操教育改革運動に与えた影響について検討することによって、当時の体操教育におけるジャック=ダルクローズのリトミックの位置づけを明確にすることが本研究の目的である。

J=ダルクローズの創案したリトミックについての研究は、これまで主に、このメソードの音楽教育としての側面を中心に行われてきた。これはジャック=ダルクローズが生涯を通じて数多くの作品を残した作曲家であり、27 歳で教授に就任したジュネーヴ音楽院においてソルフェージュと和声学を講じていたことを考えると当然のことと言うことができる。しかし、リトミックが当初 la Gymnastique Rythmique、つまりリズム的な体操と呼ばれており、ドイツの体操教育改革において、ジャック=ダルクローズは体操にリズムを取り入れるために貢献した人物として評価されていることから、体操教育との関係に着目して検討する必要がある。

リトミックと体操教育について検討した先行研究はほとんど見当たらない。J=ダルクローズ自身が著作の中で、体操や身体表現法の先達であるリング、エベール、デルサルトらについて言及していることは知られているが、彼らの教育思想や方法

論をリトミックと対比する研究は行われていない。またドイツの体操教育改革運動期の体操家たちとリトミックについての研究もごくわずかである。リトミックの音楽教育としての側面についての研究はもとより、舞踊教育としての側面、音楽療法としての側面などについては近年研究が進められているところであり、本研究においてリトミックと体操教育との関係が明確になることにより、リトミックの全貌を明らかにするために貢献することができると思われる。

本稿では前半でジャック＝ダルクローズが先達である体操家や表現理論研究家らから影響を受け、リトミックを成立させるために重要なことを学んだこと、後半ではジャック＝ダルクローズがドイツの体操教育家たちに及ぼした影響について検討し、リトミックの創案と発展について、これまで検討されてこなかった側面を明らかにすることができた。以上は一部、デルサルトら、自身で著作を著していない場合を除いて、すべて原著にあたり、正確さを期した上で検討を行った。これまで深く検討されることのなかった、リトミックが体操教育からの影響を強く受けて成立したこと、そして後のドイツ体操教育改革運動と深く関わり影響を及ぼしたことを正確に明らかにすることができた。よって、本研究は博士（ 教育学 ）の学位を授与するに十分価値あるものと認める。

（試験および試問の結果の要旨）

本論文については主査１名、副査３名による口頭試問と公聴会によって審査を行った。口頭試問ではジャック＝ダルクローズの教育理念の変遷をより明確にすべきであるとの指摘がなされ、これを修正し公聴会に臨んだ。公聴会においては「リトミック教育の奥深さを感じさせる研究」との評価を受けた。

上記の通り慎重に審査した結果、合格と判定した。